

中大沢里づくり計画

— 神戸のペスタロッチ・ヴィレッジ・おおぞう —



平成11年6月

中大沢里づくり協議会

目 次

I. 地区の現況と課題		
1 地区の概要	1~2	ページ
2 地区の問題点と課題	3	
II. 地区の整備の目標と方針		
1 整備の目標	4	
2 基本方針		
(1)魅力ある産業の振興	4	
(2)あたたかいコミュニティの形成	4	
(3)人と自然との共生	5	
(4)地域づくり組織の育成	5	
III. 里づくり計画		
1 農業振興計画		
(1)生産基盤の整備	6	
(2)地域の農業	6	
(3)生産組織の整備・担い手育成確保	6	
(4)園芸企業等の誘致等	6	
2 環境整備計画		
(1)生活	7	
(2)教育・文化	7	
(3)地域づくり活動	7~8	
(4)福祉・医療	8	
3 土地利用計画		
(1)農村用途区域	9	
(2)個別土地利用計画	9~10	
4 景観の保全及び形成に関する計画		
(1)農村景観	11	
(2)自然景観	11	
(3)歴史的景観	11	
5 計画地区と市街地の交流に関する計画		
(1)ペスタロッツ農園の開設	12	
(2)短期留学の検討	12	
(3)交流ルート等の整備	12	

I. 地区の現況と課題

1. 地区の概要

- ① 計画対象区域は、平成10年1月15日に設立（10年5月13日認定）された別図の中大沢里づくり協議会（北区大沢町中大沢集落）の区域とする。

本計画区域は、区域面積約256ha、農用地面積約62ha（農振地域の現況農用地面積）を擁している。

- ② 本区域が存在する大沢町は、四面を山に囲まれ、加古川上流の大沢川と武庫川上流の善入川の分水嶺が町の中央部に位置するが、当地区は大沢川流域にあって、山間と谷筋にわたるなだらかな田園景観を形成している。山間の棚田も多く見られたが近年のほ場整備の進捗によって、その姿は変貌しつつある。

本区域は、町の南西部に位置し、西部は美褒郡吉川町に、南部は淡河町八多町に接している。また、東部・北部は隣接集落を介して長尾町へ通じている。

主要道路は、集落の東部をほぼ南北に「主要地方道大沢西宮線」が縦断しており、自動車専用道路「六甲北有料道路」へは車で5～6分の位置にある。

- ③ 区域の南部に北六甲カントリー倶楽部が開設され、区域の約35%の面積を占めている。区域内には、大沢町を校区とする幼稚園、小学校、中学校及び大沢地域福祉センター、北神出張所大沢連絡所、児童館、郵便局、農協支所、駐在所、老人保健施設等、町の中心となる公共的施設がある。

- ④ 平成7年の当区域の総世帯数は60戸で、そのうち農業世帯は49戸（80%）を占めている。

その構成は、専業農家は2戸（4%）、第1種兼業農家が3戸（6%）、第2種兼業農家44戸（90%）を占めている。

また、総人口は290人で、そのうち農業人口は245人（84%）となっており、10年前の263人に比べると7%の減となっている。

- ⑤ 農業の生産基盤整備の面では、地区内のほ場整備計画面積約60haのうち32haは面工事が終了しており、切町地区の28haは平成10年度に実施設計がされており、近年中には計画区域全体の工事が完了することになる。

- ⑥ 農業生産面では、平成4年8月に「農用地利用改善団体」を設立して、「地域と共存して、地域への貢献と担い手育成を展望した営農活動」を運営方針として水稻農作業の受託事業を展開し、拡大を図っている。

その面積は、耕起作業 3.2ha 田植作業 4.2ha 刈取調製作業 6.0ha 調製作業 1.2ha 堆肥散布作業 3.2ha 全作業受託 2.0ha となっており、ほ場整備の進捗に応じて作業面積の拡大が図られている。(受託面積は9年度実績)

⑦ 農業状況

(資料：農業センサス等)

項目 年度	総世帯数 (F)	総人口 (人)	専業別農家数 (F)				農家 人口 (人)	農業従事状態世帯員数(男)			農業従事状態世帯員数(女)		
			総農家数	専業	第1種 兼業	第2種 兼業		自家農業 のみ	自家農業 が主で、 兼業が従	自家農業 が従で、 兼業が主	自家農業 のみ	自家農業 が主で、 兼業が従	自家農業 が従で、 兼業が主
S60	60	287	52	—	9	43	263	17	5	55	49	—	25
H 2	60	295	49	1	7	41	236	19	5	52	39	6	26
H 7	60	290	49	2	3	44	245	18	7	46	35	2	14

項目 年度	経営耕地面積 (a)				主要作物別収穫面積 (a)				家畜飼育戸数・頭数			
	田	畑	樹園地	合計	稲	野菜	花	飼料作物	乳用牛 戸数	肉用牛 頭数	肉用牛 戸数	肉用牛 頭数
S60	3,447	73	30	3,550	2,860	143	52	10	-	-	3	4
H 2	3,524	9	34	3,567	2,508	155	48	12	-	-	1	1
H 7	3,484	84	5	3,573	2,496	143	20	19	-	-	1	1

2. 地区の問題点と課題

当地区の農業・地域活性化への課題・問題点は、当協議会のみで対応出来ない課題も多く、町単位 の地域協議会等広域な連帯を通じて解決を図っていくことが重要となる。

① 公共交通機関の整備

六甲北有料道路等の幹線道路網の整備は、近年の住宅団地の開発と相まって急速に進められているが、バス等の公共輸送機関は運行回数が少なく、高齢者や自動車免許不取得者にとっては、極めて不便な状態になっている。

② 児童・生徒数の減少への対応

大沢町全域を校区とする幼稚園（23人）、小学校（83人）、中学校（35人）と全児童、生徒を合わせても141人（大沢町の全人口の10%）にすぎず、学校の活性化と地域の次代を担う世代の確保が全町上げての課題となっている。

※人数は平成11年4月現在

③ 農業生産の停滞と地域農業活性化への取組

安定した所得が確保されることから兼業農家が大多数であり、農地の維持・管理が図りやすい稲作が主体の農業経営が営まれている。

しかし、生産調整の対応や各個人の営農からコスト削減を視野に入れた集落営農の体制強化が必要である。

④ 地域活動の活性化と市街地との交流

当地区では、現在 秋祭り、獅子舞等の伝統行事や老人会、消防団、子供会等の各種地域団体活動が盛んであるが、今後共同作業が減少し、地域の結束が薄れる心配がある。

地域づくり、人づくりを進めるとともに外部に開かれた市街地との交流を図る中で、地元の良さを再認識できるよう地域活動の活性化を図ることが大切である。

II 地区の整備の目標及び方針

1 整備の目標

国際化・地方分権・里づくり等の時代を背景として、地域特性を生かした「個性的な地域づくり，人づくり」が重視されている。このため、「次代を担う青少年の育成と人づくり」を地区の整備目標に置く。

また、人づくりにあたっては教育の原点に立ち返り、世界の教育学の元祖であるJHペスタロッチの理念「知（頭＝Head）」「徳（心＝Heart）」「体（手＝Hand）」を地域活性化に応用し、里づくりキャッチフレーズを「神戸のペスタロッチ・ヴィレッジ・おおぞう」とする。

2 基本方針

あたたかい人づくりと教育の里を目指して、できる事柄からの小さな第一歩（当面、何ができるか）を考え、受入れ拠点は公会堂とし、他団体や組織からの助言・助成・指導を受け、また、他行事（レンタサイクル等）との連携や先進地調査を実施して目標実現に取り組む。

(1)魅力ある産業の振興

①農業の活性化

- ・担い手の確保対策として、認定農業者や集落営農組織を育成・強化する。
- ・地域特産物の振興やフルーツ・フラワー・パーク等を活用した朝市を促進する。
- ・土地基盤や水利権を整備する。

②観光・レクリエーションの振興

- ・都市近郊の有利な立地条件を活用し、市街地との交流を図る。このためにも、ペスタロッチ体験農園，太陽と緑の道，フラワーロードの整備を促進する。

(2)あたたかいコミュニティの形成

①教育・文化の推進

- ・キャッチフレーズにふさわしく、2002年から始まる小・中・高の週休2日制，総合学習の導入等に対応して、ペスタロッチ関係施設整備，ペスタロッチ関係行事，ホームステイ等の推進を図る。

②あたたかい地域づくり

- ・福祉・医療，生活環境の整備が必要であり，高齢者生きがい対策，地元分家住宅の建設，優良田園住宅の導入等を検討する。

(3)人と自然との共生

①自然生態系の維持

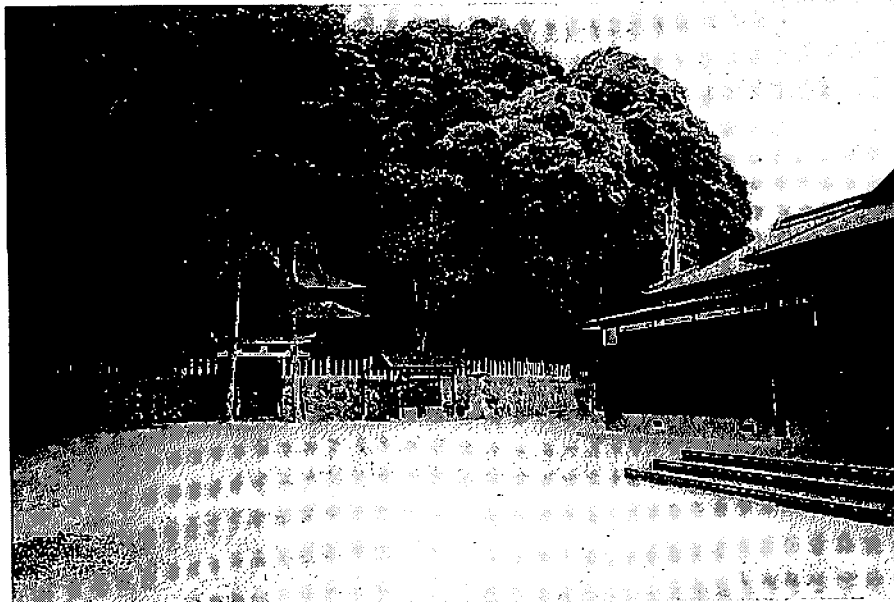
- ・自然生態系の維持を図りながら、生活・文化の振興を図ることが必要である。このために、生きものとふれあいの里、ホタルの里づくり、河川公園の設置等を通じて自然生態系の維持を図る。

②景観と環境の保全

- ・美しい田園景観の保全を図るとともに、土地利用計画に基づき下水道の整備やゴミ対策を行い、環境の保全を図る。

(4)地域づくり組織の育成

- ・魅力ある産業の振興・あたたかいコミュニティの形成・人と自然との共生を進めるために、地域づくり組織の育成とともにその役割分担が必要となる。
- ・現在、中大沢里づくり協議会が結成され、その中に土地利用部会、営農部会、ペスタロッチ推進部会等が活動を始めているが、この活動を強化する。また、今後の農業振興に合わせ、直売部会、観光部会等を設立する。



Ⅲ. 里づくり計画

1 農業振興計画

(1)生産基盤の整備

- ・盛り土工事を進めている「切町地区」ほ場整備の早期完成を図り、ほ場の効率的な活用を図る。併せて、地区内の水利権を整理し、効率的な営農手法を確立する。

(2)地域の営農

①特産物の振興

- ・フルーツフラワーパークでの朝市、北農協本所での夕市に出品する作目を確保、拡大するため生産体制を整備する。

②転作作物への対応

- ・現在の高率転作に対応するため、体験農場（ペスタロッチ農園）へのほ場提供や、ふれあい交流の場として利用可能な景観作物の拡大を図る。
- ・また、水利、労力等の効率を確保するため、集団転作、ブロックローテーションを取り入れる。
- ・中大沢営農組合によって、水稻以外の転作作物の栽培を検討する。

③畑地の活用

ほ場整備事業により新たに造成された畑地での営農を振興する。この中で、観光果樹園を設置し、フルーツ・フラワー・パークとの連携を図る。

(3)生産組織の整備・担い手育成確保

- ・「中大沢営農組合（構成員：38戸、オペレーター：10名）」を主体とした水稻作業受託の推進とオペレーターの確保を努める。
- ・担い手育成基盤整備事業における担い手（4人）については、中大沢営農組合を主体とした農作業受委託に切り換える。

(4)園芸企業の誘致等

- ・水耕栽培等の大型園芸施設栽培を計画する企業の誘致を図り、就労機会の拡大に努める。
- ・新規就農希望者に対しては、ほ場の斡旋等の積極的な支援を講じる。

2 環境整備計画

(1)生活

①道路・交通安全

- ・地区内には、「救急車・消防車の入らない所」「見通しの悪い所」が散在しており、これらに対処するため用地の提供や関係機関への働きかけを通じて、問題箇所の解消を図る。

②カーボランティア組織（やまびこ会）

- ・高齢者等に対する支援として運営している「カーボランティア組織」への参加を促進する。

③ごみ処理

- ・改善すべき場所としてゴミステーションが指摘されており、マナーの啓蒙、向上を図る。
- ・既存の資材置場、廃車置場には、遮蔽帯の設置等の働きかけを行い、景観への配慮を求めていく。
- ・生ゴミの堆肥化を進める。

(2)教育・文化

①ペスタロッチ民泊の実施

- ・学校、市民団体等を通じて児童・生徒の公会堂への受入れ、民泊等による交流の実施。
このため、実施に向けて、受け入れ側の意識改革・意思統一のためのアンケートや相手先への条件設定（有料化等）調整を行う。

②ペスタロッチ賞の創設

- ・児童、生徒、学生を対象に全員に長所をみつけ表彰するようにする。
これの実施のため、具体的な扱いを定める。

③教育研修の実施

- ・学校、PTA、青少協等と連携した住民研修会の実施。

④民俗資料館の拡充

- ・現在、フルーツ・フラワー・パーク入口近くに設置している農具・民具等の民俗資料館の拡充を支援する。

(3)地域づくり活動

①伝統行事の継承

- ・古代からの神楽奉納を集落の青年団が担っており、この活動が集落の中核世代による各種活動の原動力となっているので、今後ともにこれの継続を図る。

②大沢音頭の復活，新設

- ・一時途絶えていた大沢音頭の復活にその道筋が見えてきた。今後は、一層の地域の活動をたかめるため，積極的な取組を行う。

③高齢者生きがい対策

- ・わら細工や運動会を通じて学童層との交流が続けられており，これらの催しを継続し，地域における世代間交流を図る。
- ・孟宗竹を活かした竹製品等による余暇対策を検討する。

(4)福祉・医療

- ・老人保健施設「らぼーと」の入居者との交流を図る。



3 土地利用計画

現在の土地利用計画は次のとおりであるが、今後に予想される多用途な土地利用にあっては、地域が一体となり秩序ある利用を進める。

(1) 農村用途区域

〔農業保全区域〕 優良農地のまとまりを中心として、散居家屋等を含めて指定している。

特に区域の変更は計画していない。

〔環境保全区域〕 里山等を主体として指定している。

特に区域の変更は計画していない。

〔集落居住区域〕 当面、区域指定計画はない。

〔特定用途区域〕 幼稚園・小、中学校敷地及び郵便局敷地をA区域として指定。

特に区域の変更は計画していない。

(2) 個別的土地利用計画

今後の切町地区のほ場整備の中で、次の非農用地区域の設定を行う。

①農業用共同利用施設用地（別図 ①） 2ヶ所 約5,500㎡

②共同墓地用地（別図 ②） 1ヶ所 約1,500㎡

③ため池用地（別図 ③） 2ヶ所 約23,000㎡

④農家・分家住宅用地（別図 ▲） 6件 約3,000㎡

⑤農業用倉庫用地（別図 ■） 6件 約1,200㎡

4 景観の保全及び形成に関する計画

本区域には、長い歴史の中で培われた景観や文化的資産が継承されているが、特に下記のものについては、積極的な保全を図る。

(1)農村景観

中大沢全域

地域を南北に走る「主要地方道大沢西宮線」を谷筋として、東西に緩傾斜をもって広がる田園風景、及びこれに調和した里山の景観。

(2)自然環境

素盞鳴尊神社の社叢

「神戸市文化財の保護及び文化財等を取り巻く文化環境の保全に関する条例」に基づき「神戸市天然記念物」に指定されている。

- ・この社叢は、コジイが優占する照葉樹林であり、階層構造は高木層、亜高木層、第1低木層、第2低木層、草本層の5層からなっている。
- ・本群集は、植物社会学的には瀬戸内の代表的な自然植生であるコジイ-カナメモチ群集に属し、そのうちの内陸部のタイプであるシラカシ亜群集に含まれるもので、内陸部の照葉樹林としては数少なく貴重である。

(3)歴史的景観

素盞鳴尊神社

- ・神戸市建築百選に選ばれている。
- ・創建は室町時代以前と伝えられており、天正8年（1580）に羽柴秀吉が三木城を攻めた際、兵火にかかり焼失した。
- ・現在の建物は、寛永年間（1624～1643）に再建されたものとみられる。

5. 計画地区と市街地との交流に関する計画

(1)ペスタロッチ農園の開設

- ・学校教育の実践の場として、或いは都市と田園・異世代間の交流の場として休耕田を活用した農園の開設を行う。
- ・このために、①作付作物<水稲，根菜類，果樹等（柿・いちじく・プラム等の果樹）>の選択②維持管理体制の確立 ③指導員の確保 ④農園利用者（学校・団体・同好会）の発掘等をペスタロッチ推進部会において進める。

(2)短期留学の検討

- ・教育委員会・学校と協議して家族受入れ，学生・生徒のみの受入れ等の検討を行う。
- ・受入れ側の研修，意識改革，施設等の問題整理を図る。

(3)交流ルート等の整備

- ・「太陽と緑の道」の整備と併せて，その沿道に休耕田を利用した景観作物を配置し「フラワーロード」の整備を図る。
- ・計画地区周辺に既存する集客施設（ビール工場，フルーツ・フラワー・パーク，レンタサイクル，観光農園）等と連携を図りながら，大沢町全域をエリアとする交流ルートを整備する。

中大沢土地利用計画図



農業保全区域

特定用途A区域
(小・中学校)

大沢遊楽所

環境保全区域

ゴルフ場

凡 例	
農業用共同利用施設用地	①
共同墓地用地	②
ため池用地	③ ④
農家・分家住宅用地	▲
農業用倉庫用地	■

